

# ふるさと

10

vol.246  
2018

JA秋田ふるさとは、新たな期待を創造します。



## 【特集】

JA運営委員会・秋季支部座談会Q&A  
みなさんの声に答えます





秋田露刈り

秋田から広がる食農  
つながる未来

## 日本最大級の農業の大祭典！



主会場＝秋田拠点センターアルヴェ  
優良農産物の出品展示、学校農園活動発表、県内JAの地産地消展、  
石川理紀之助翁展、森川源三郎翁展 ほか



協賛第1会場＝ぼぼろーど・西口大屋根下通路・アゴラ広場  
各種地場産品販売、飲食ブース、農業関連参考展示、  
ステージイベント（ベリッソモ・フランチェスコ料理ショー、秋田の伝統芸能）ほか



協賛第2会場＝エリアなかいち（にぎわい交流館AU、にぎわい広場）  
秋田の食・日本酒等グルメ屋台村、秋田のうまいもの物産展、羊燈等秋田の伝統芸能、  
内館牧子講演、渥美二郎コンサート、假屋崎省吾の世界トーク&デモンストレーション、  
屋外特設ステージ（壇蜜、超神ネイガー）、プロジェクトンマッピング ほか



協賛第3会場＝旧秋田空港跡地（大駐車場完備（2,000台）駐車可）  
最新農業機械の展示・実演、飲食・物販の屋台村、  
植木・苗木市、農業資材展 ほか

その他協賛会場＝刑務所作業製品展（秋田市役所内）、秋の工芸品まつり（アトリオン） ほか

会期：平成30年（2018年）

10月30日<sup>火</sup> ▶ 11月5日<sup>月</sup>

会場：秋田県秋田市

主催＝秋田県農業協同組合中央会 協賛＝秋田市協賛会  
＜写真＞秋田県＝大きいものは2メートルにもなる、毎年6月（秋田市仁井田）おぼこ家の露刈り撮影会がある。

# 秋田県 種苗交換会

先人に学び農業の未来をひらく



第141回  
秋田県秋田市

## 第141回秋田県種苗交換会出品物を募集中！

- 【 募集内容 】 水稻、畑作物および工芸作物、果樹、野菜、花き、農林園芸加工品、  
畜産品および飼料、林産品 【出品申込受付期日】 平成30年10月17日（水）  
【出品物提出日】 平成30年10月26日（金） 【詳細】 最寄りの営農センターまで



## 佐藤 <sup>すず</sup> 鈴ちゃん (平鹿・2歳)

両親(父・康弘さん、母・里美さん)と祖父母の5人家族。好きな食べ物は白いごはん。お母さんの作ったおにぎりが大好きです。今日は、お酒になるお米を作っているお父さんの田んぼをお散歩。トンボやバッタなどの生き物がたくさん。「みんな、お友達になろうね!」

# JA通信 ふるさと

October  
10  
2018

## 02 秋田県種苗交換会のお知らせ

## 04 【特集】 JA運営委員会・秋季支部座談会Q&A みなさんの声に答えます

## 08 ニュース&トピックス

## 12 営農ワンポイントアドバイス

## 13 地元の高校生が行く!突撃!アグリリポート

## 14 農に生きる 新山武さん

## 16 レシピ

## 17 健康情報

## 18 まめなひと

## 19 JAを知ろう!学ぼう!

## 20 バラエティコーナー

## 22 インフォメーション

## 24 ふるさとの民話 JAの概況 編集後記



## 平鹿町酒米研究会

極上の日本酒を作る上で欠かすことのできない良質な米。今年創立30周年を迎えたJA秋田ふるさと平鹿町酒米研究会は「天の戸」の銘柄で知られる地元酒蔵・浅舞酒造(株)と契約。計36haの酒造好適米(「吟の精」や「美郷錦」、「秋田酒こまち」、「美山錦」、「星あかり」、「亀の尾」)を作付しています。平成30年現在の会員は18人。切磋琢磨し合いながら品質向上に努めています。



(撮影日 9月15日)

# みなさんの声に 答えます



9月12日から14日にかけて開催した「秋季支部座談会」において寄せられたご意見やご要望、ご質問について8月29日に行われた「第1回JA運営委員会」の質疑と合わせて回答いたします。



**Q** うるち米概算金の支払いについて、平成30年度は2段階に分けて支払われるとの事。2次概算金については少しでも多く支払いできるように努力していただきたい。

**A** 10月末の集荷数量を基準とし、作況、集荷状況、及び卸・実需との相対価格を考慮し、直ちに2次概算金の支払いを実施致します。最終精算を含め、農家手取りの最大化を目指し積極的な販売対策に取り組みますのでご理解願います。

**Q** 肥料や農薬の取り扱い品目を厳選し、主力品目の価格を下げてください。

**A** 「平成31年度用営農資材申込書」にも記載しておりますが、水稲用肥料については11品目にしつぽり、価格についても後戻し奨励でなく購入時にしっかりと反映させる「価格の見える化」を実施いたしました。今後も利用者の皆様からのご理解とご協力を得ながら、品目の集約と「新価格設定システム」へと順次切り替えをすすめ、価格の引き下げに努めて参ります。



**Q** 平成29年産米の7月末現在市中価格について、平成28年産米と比較し1,200円ほど下落し14,200円程度で取引されているとの報告だった。現在は、作付出来る圃場にはできるだけ作付をしていくとの組合の方針であるが、価格の変動についてはどのように考えているか。(JA運営委員会での質問)

**A** 4月に入り、市況の価格は下がっております。概算金を決定する際には、あくまでも年間を通しての加重平均を基に積算致します。これを考えますと、現在のところ昨年並みの概算金になるのではないかと予想しております。価格については、国の方針も、系統内でも年産によってあまりブレがない方が消費者、生産者双方の利益につながります。4月の市中相場の下落についても加重平均の中で考えますと昨年並みになることと見通しております。



県産水稻種子の利用拡大に向け、高品質種子もみの生産に努めている大雄採種圃部会。9月6日に成熟期本審査を実施し、視察した県担当者は「粒張りも良く、稲体が健全に保たれ、良い種子もみが期待できる」と話した。



**Q** もみ殻の処理に困っている。JAで対策を考えてほしい。

**A** 圃場に還元していただければ、地力の向上につながります。なお、畜産課では畜産農家への斡旋も行っておりますのでご相談ください。



## J A 運営委員会

J A 全般にわたり、広く意見を聴取し、それらを J A 運営に反映させることを目的とする委員会。組合長及び常勤役員や地区運営委員会代表、地区支部代表者協議会代表、青年部、女性部、フレッシュ部会代表、その他組合長が必要と認めた者で構成する。事業計画、事業報告、運営方針、事業推進方針等 J A 全般に対する意見の聴取、協力要請、協同活動や事業運営課題の検討を行う。

**Q** 農業の労働力不足の問題について、今後、状況の悪化が加速化してくると思うが、J A の役割、労働力支援についてどのように考えているのか。

(J A 運営委員会での質問)

**A** 県内の J A では労働力不足の課題に対して、生産者と働き手のマッチングの対応を行っている J A もあります。しかし、実態を確認しますと、依頼者は多いが見合う働き手が確保できず、うまく機能していないとのことです。シルバー人材センターに派遣を依頼しても、シルバーの方が仕事を選んでなかなか来てもらえないと言うのが現状の様です。労働力不足に関しては J A だけではなく農家も大変であることは重々承知しております。現在、J A の担い手支援室と市の農林部とで新規に人材バンクの様な事業ができないかと検討しておりますので、いましばらくお時間をいただきたいと思えます。



## Q

黒星病対策にしっかり取り組んでほしい。また現状などの情報をいち早く組合員に伝えてほしい。



## A

リング黒星病対策については、県が主体となり、平成30年7月20日に「リング黒星病緊急対策連絡協議会」を設立しました。これを受けて平鹿地域振興局と J A が主体となり、管内リング園地すべてを対象に黒星病の発生調査を行い、現在調査結果をまとめている最中です。今後は調査結果を踏まえ、来年度の防除対策等を検討して参ります。



秋季支部座談会は340会場において開かれ、2,995人の組合員が出席した。  
 営農関係の案件を中心に役職員が説明した  
 (写真=横手地区の座談会の様子)

## Q

口座振替手数料の変更について理由を教えてください。

## A

現在金融窓口での各種取引は秋田県内統一の電算システムを使用して作業を行っておりますが、これらの管理費、使用量等が年々増加しております。実際の経費と各種手数料を十分に精査し、現況に見合ったご負担をお願いするため、10月1日から振替手数料を含めた一部手数料について変更させていただきました。集落営農組合・農事組合法人につきましては実費のみをご負担いただく設定とさせていただきます。なお、近隣JA・他銀行等でも同様の見直しを行っております。ご理解の程よろしくお願いいたします。



その他のご質問やご意見については11月に発行予定の「座談会特集号」において回答させていただきます。

## Q

職員の退職者が多く、それに伴って人事異動もあるため、業務に支障が無いようにしてほしい。

## A

昨年度は定年退職者(子会社転籍含む)17名の他に、18名の中途退職者がありました。年度ごとの職員採用計画および離職者対策等を含め、早急な人員確保の手立てが必要と思っております。組合員の皆様には業務に支障が無いよう今後も人事管理強化に努めて参ります。

# News & Topics ニュース&トピックス October 2018



今月の組合員のみなさんの活動やJAの行事を、写真と記事で振り返ります。



▲神事を行い、有利販売や作業、輸送の安全などを祈願した



▲ミス・フレッシュによる試食を実施した



▲粟津信幸部会長は「安全安心にリンゴが消費地に届けられることを期待したい」と話した



▲テープカットを行う関係者。この後、早生種「つがる」8トンを載せたトラックが関西市場へ向け出発した

## りんご出発式 有利販売や作業 輸送の安全を祈願し出発

りんご部会は9月4日、醍醐選果場で出発式を開き、全国の取引市場11社や部会員など50人が参加しました。式典では神事を行い、有利販売や作業、輸送の安全を祈念。続いてドライバーへの花束贈呈やテープカット、「ガンバロー三唱」を行いました。早生種「つがる」の試食会も行い、県産青果物キャンペーンガール「ミス・フレッシュ」の2人が参加者へ振る舞いました。

今年度産のリンゴの生育は高温干ばつ傾向が続きましたが、平年並に推移。シャリシャリとした硬い食感で、甘みも乗り、上々の出来となりました。早生種の「さんさ」の収穫は8月27日、「つがる」は8月28日から開始。9月下旬には中生種の「やたか」、さらに10月下旬からは「王林」「ふじ」の収穫が続き、2月まで県内や関東、関西市場へ出荷する予定です。

同部会は今年度出荷量6000トン、販売額12億円を目指しています。

## 西瓜販売実績検討会 数量減も高単価維持 販売金額11億円超へ

西瓜部会は9月5日、販売実績検討会を横手セントラルホテルで開き、行政や全国21の市場、部会員など100人が参加しました。今年度産のスイカの生育は7月中旬以降の高温干ばつにより日焼け果の発生や切り上げりの前進などで出荷量が5,218トンと部会目標の6,000トンには届きませんでした。しかし、販売面では高温傾向が追い風となり堅調に推移し、シャリ感、糖度ともに好評であったことも高単価販売を後押し。販売金額が部会目標の11億円を超える見込みとなりました。市場担当者からは県オリジナル品種「あきた夏丸」の食味を評価する声が多く、年々需要が伸びている「あきた夏丸チッチェ」についても増産を求める声が上がりました。佐々木徹部会長は「生産者一人一人が責任を持ち、信頼される生産地を造り上げよう」と呼び掛けました。



▲あいさつをする佐々木部会長



▲次年度の生産に向け積極的な意見交換が行われた



▲あきたこまちな品種見本



▲規格基準を確認する検査員

## 農産物検査員進発式 公正な目で 確実な検査誓う

J Aは9月20日、八沢木倉庫で農産物検査員進発式並びに検査目ぞろえ会を開き、農産物検査員の資格を持つJ A職員50人が参加しました。検査にあたって関係法および業務規程に従い、適正な農産物検査を行うことを確認しました。

今年度産米の特に注意する点として、登熟期の高温などの影響による心白粒やカメムシの発生量が多かったことによる着色粒の混入が多くなると予想。検査員には県J A農産物検査協議会で作成した今年産米の1等米と2等米の検査見本米を配布。実際に水稻うるち玄米を手に取りながら規格基準を確認し合いました。

なお検査は9月19日から阿気倉庫を皮切りに各地区の倉庫で開始。初日は全量1等米という格付結果となりました。

## シャインマスカット品評会 更なる技術向上へ 品評会“初”開催

J Aと同J Aぶどう無核会は生産者の栽培技術と生産意欲の向上につなげようと、9月28日、よこてシャイニーパレスでシャインマスカット品評会を初めて開きました。県や市、同会会員など39人が参加。同会会員が丹精込めて育てた自慢のシャインマスカット27点が出品され、県果樹試験場や市場の担当者など6人の審査員が、房の形状や粒のそろい、糖度など同J Aへの出荷基準を基にした6項目について厳正に審査しました。

審査委員長を務めた県果樹試験場の大隅専一場長は「天候不順による開花期の不ぞろいや、7月中旬の高温干ばつなど、栽培に不利な条件がそろったともいえる年であったが、それらを乗り越え素晴らしい品がそろった。生産者の栽培技術の高さがうかがえる」と講評しました。

同会の小川忠洋会長は「品評会を契機として、管内のシャインマスカットを全国に広められるよう、更なる栽培技術の向上に努めていこう」と呼び掛けました。



▲審査の様子



▲第1席となる秋田県平鹿地域振興局長賞には鈴木靖之さんが選ばれ、父の三郎さんが代理受賞した(左)



▲山田さんの指導を受ける生徒(平鹿)



▲ハウスキュウリの後片づけ作業を体験する生徒(十文字)

## 清陵中農業体験 将来の職業観養成 青年部16人が受入

生徒たちに将来の職業観を養ってもらおうと、秋田県立横手清陵学院中学校(信田正之校長)は、9月19日に農業体験を行いました。

同校2年生66人が16班に分かれ、地元農家のもとで農作業に挑戦しました。

総合的な学習として行う同校の職業体験は今年で8年目。J A青年部に所属する16人の農家が受け入れました。このうち、リンゴを栽培する平鹿地区の山田浩平さんの園地では、4人の生徒がリンゴの着色に必要な摘葉作業に挑戦。日光がしっかりと当たるようにリンゴの周囲にある葉を落とし、作業漏れがないようにひとつひとつ確認しながら作業を行いました。

体験した生徒の一人は、「山田さんに教わりながら楽しく作業ができた」と笑顔で話しました。生徒を受け入れた山田さんは「体験活動を通じて、将来どのような形でかまわれないので農業に触れてもらえたら」と期待を込めました。

## 女性塾開講式・第1回目講座 月イチ！きらきら ユニカールで健康増進

J Aは9月20日、第7期女性塾開講式を平鹿支店で開き、管内在住の30代から50代の女性32人が第7期受講生として入塾しました。9月から2月にかけて月に一度実施するもので、「健康」や「見学」「流行」「手芸」「美容」「料理」の6つのテーマでカリキュラムを組んでいます。

開講式ではJ Aの鷹田直専務が「地域活性化の原動力は女性。いろんなことを学習しながら地域作りにつなげてもらいたい」とあいさつし、受講生にエールを送りました。

第1回目講座は「健康」をテーマに雑誌「家の光」10月号記事紹介の後、平鹿体育館に場所を移して、屋内で楽しむカーリング「ユニカール」を行いました。3人ずつにチームを作り、計10チームが5レーンで白熱した試合を展開。参加した受講生は、「良い運動になって楽しかった」と笑顔で感想を話していました。



▲ユニカールを楽しんだ受講生。講座終了後も「まだまだできそう」と話していた



▲白熱した試合を展開。歓声を上げてチームで喜び一幕もあった



▲太鼓や花火、屋台などでにぎわいを見せた（金沢地区秋まつり）



▲大鍋でいものこ汁を作り、来場者に振る舞った（山内いものこまつり）

## 秋まつり大盛況 芸術文化を体感 旬の味覚にも舌鼓

9月2日、金沢支店は、組合員や地域住民との親睦を深める支店協同活動の一環として金沢ライスセンターで地区秋まつりを開きました。ステージでは子どもたちの八幡太鼓の演奏や地区民謡同好会によるショー、助け合い組織による体操、打ち上げ花火を行い、にぎわいを見せていました。

9月16日にはJ Aが「山内いものこまつりin鶴ヶ池」（主催：同実行委員会）に参加しました。山内いものこ部会員が4つの大鍋で4000食のいものこ汁を作り、J A職員が1杯400円で販売。好評のうちに完売しました。いものこ汁を初めて食べた県外の来場者は「想像以上に粘りがすごくて、おいしかった。また食べに来たい」と話していました。



## 秋の味覚 “きのこ”について

【指導員】 園芸課 鈴木 琢磨

朝晩の気温も下がり、すっかり秋めいてきました。JA秋田ふるさとでは県内一のきのこ産地です。秋が旬と言われているきのこですが、そもそもなぜ秋が旬と言われているのかご存知でしょうか。

今回は意外と知らないきのこの生態について紹介します。

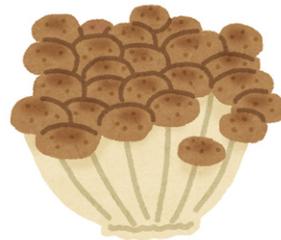
### 【きのことは】

きのこは動物でも植物でもありません。カビと同じ菌類で、種ではなく胞子で増えます。菌類のうちで、胞子をつくる部分（子実体）を目で見ることができくらゐ大きな菌をきのこと呼んでおり、きのこというグループがあるわけではありません。日本には名前がついているだけで約3000種、世界では約2万種あるといわれています。



### 【きのこの旬】

きのこは1年を通して育ちます。気温が下がり、雨が降って土の水分が増えるなど菌糸が刺激を受けると子実体が作られます。秋がきのこ狩りのシーズンと言われるのは、きのこにとって秋の気候が子実体の作られる刺激となるからです。また、一般的にはあまり知られていませんが、梅雨の時期にあたる6月～7月もきのこの生育に適しているため、旬と言われています。



### 【きのこの種類】

きのこの種類は大きく2種類あります。きのこは植物ではないため、光合成を用いて自分で栄養を作ることができません。枯木や落葉などを分解して養分を得る「腐生性きのこ」と、生きた木の根にくっついて共生しながら栄養を得る「菌根性きのこ」があります。



### 【きのこの栽培】

シイタケ、ナメコ、エノキタケ、ブナシメジなど腐生性きのこは人工栽培されています。樹木に種となる菌を植え付け栽培する原木栽培や、ビンや箱におがくずやチップを入れて栽培する菌床栽培などがあります。

マツタケやホンシメジ、トリユフなどの菌根性きのこはアカマツなどの根と共生しながら育つため、人工栽培ができません。自然に生えたものを採取していましたが、しかし、2017年に韓国でマツタケの人工栽培に成功したというニュースが流れました。高価でなかなか気軽に購入することのできなかったマツタケが今後手軽に購入できる日も近いかもしれませんね。

# 地元の高校生が行く！ 突撃！ アグリレポート

137時間目「稲刈り最盛期！今と昔の農作業についてお話を聞いてみよう！」



昔、農作業の合間に食べられていた「おやつ」についても教えていただきました！



お話をうかがって人とのつながりや助け合いの大切さも学びました！



取材させていただいた佐藤さんご夫妻



雄物川高校

1年伊藤彩香さん 3年佐藤二知翔さん 3年島山春花さん 1年佐藤達也さん

コンバインに乗って稲刈りも体験させていただきました！



間近で稲刈りを見るのは初めて



おいしい！

卵寒天と  
おいなりさん



作業後の一服は格別！お話も弾みました



私たち雄物川高校家庭クラブは雄物川町の佐藤一夫さん・栄美子さん夫妻を訪問し、稲刈りの様子取材しました。一夫さんは「あきたこまち」を4ha栽培しており、米の他にハウレンソウも出荷しているそうです。

稲作の難しいところは「水」の管理だそうです。おいしい米を作るためには水が大切で、今年のような猛暑の年は水がすぐに干上がってしまうので調整が難しいそうです。逆に夏に涼しすぎることも米にはよくないそうで、おいしく育てるためにはたくさんの苦労があると思いました。しかし、大変なこともある分、収穫した時の喜びも大きく、それがやりがいだとお話してくださいました。

また、私たちは農作業時の「おやつ」についても教えていただきました。今は機械で作業しているので短時間で稲刈りできるようになりましたが、昔は全て手作業で重労働だったため、腹もちのよい食べ物をおやつとして食べていたそうです。この日はもち米で作ったおいなりさんと卵寒天をごちそうになりました。栄美子さんは近所の方などと情報交換をして、「おいしい」と話題になったものを作ってみたりしているそうです。この日いただいたおやつはどれもとてもおいしく、みんなで食べるとさらにおいしくなるものだと思います。この日は、一夫さんの同級生の方も稲刈りのお手伝いをしていて、人とのつながりや助け合いことの大切さも感じました。

佐藤さん夫妻は楽しみながら生涯現役で農業をやるのが目標だと笑顔でお話してくださいました。私たちも何事も楽しみながら頑張っていきたいです！お忙しい中ありがとうございました。

明日を担う生産者たちの思いを探る

# 農に生きる

新山 武さん ■ 十文字



## 経

営基盤を作ってくれた両親に感謝し、次世代へとつなぐ農業に邁進していきたい。

3人姉弟の長男として育った武さん。大学卒業後、自動車関係の会社に就職し、4年間会社員として働きました。会社員として働く中で「経営者になりたい」という意欲が沸きあがっていききました。「農業は良くも悪くも自己責任。自分の性格に向いていると感じた」と帰郷を決意。26歳で就農しました。

## 輪作体系の確立

就農当時は水稲と大豆のみの栽培を行っていましたが、徐々に面積を増やし、現在では小麦とソバの生産も行っています。「4品目にすることで作業の一極集中を無くし、万一のリスクの分散にも繋がる」と武さんは語ります。水稲以外の作物は、毎年同じ圃場に作付を続けると次第に生育不良となり収量の減少にも繋がる連作障害が発生します。この連作障害を防ぐために、武さんは3年4作水田輪作体系を取り入れました。

これはある圃場で1年目に水稲を

作付した場合、2年目には大豆、3年目にはソバと小麦の二毛作を行うというように品目をローテーションさせながら栽培を行う営農スタイルです。これにより品質と収量の安定化に成功しました。

## 発想の転換

メリットの多い輪作ですが、水田を一度畑にすると土が硬くなり代かきに難儀したり水持ちが悪くなるというデメリットもあります。

武さんは「土が硬い」という点に着目。採用したのが水稲の直播栽培でした。6年前に直播用の機械を借り試験的に導入。直播した種子は土に沈み過ぎると発芽率が低下してしまうため、硬めの土と直播は相性が抜群でした。導入当初は直播栽培に登録が取れている農薬が少なく、防除の面で苦労しましたが、年々使用できる農薬の種類も増え、現在は防除の選択肢も広がりました。直播栽培を導入したことにより「分けつを早期に確保できるようになったほか、田植え作業も早くなり、使用する種子の量も苗箱を利用する場合と比べて半分で済むようになった」と手応



4. 汎用コンバイン。大豆や小麦だけでなく、水稲も刈り取ることができる（撮影日9月18日）



3. ブームスプレーヤー。防除の効率化に欠かせない存在（撮影日9月18日）



1. 2. 播種機。品目によって使い分ける（撮影日9月18日）



解決できない問題はない。  
 答えが出なくても時間が解決してくれるー。

武さんは息子の耕生くんにも将来農家になってほしいと期待していますが、「無理やりに跡を継げと言うつもりはない」と語ります。「『子どもは親の背中を見て育つ』というわけではないけど、働く自分の姿を見せることで自然に農業に興味を持ってくれたら嬉しいし、それが親の役

### 親父は背中語る

えを感じており、「苗箱運びが大変だったので、それが無くなるのは助かる」と笑みを浮かべます。今では「萌えみのり」の全面積を直播で栽培するまでになり、今後はさらに「種子をコーティングするタイミングと一緒に殺菌剤処理を施し、いもち病の対策ができないか考えている」と常に一歩先を見据えています。

割だと思ってる」と話し、「そのためには『僕のお父さんってカッコイイな』と思われる親父でありたい」と武さんは笑います。



5. 汎用コンバインでの刈取り作業（撮影日9月19日）



新山 武さん (38)

■栽培品目 水稲：6ha（あきたこまち、萌えみのり、秋田63号各2ha）小麦：5ha  
 大豆：14ha ソバ：5ha

「現状に満足することはない。常にアンテナは高く張り、最先端技術の導入など、新しいことに貪欲にチャレンジし続けたい」と語る武さん。IoT（モノのインターネット）を利用した農業にも着目しており、「現在の圃場の状態が家にいながらわかる時代がくる」と更なる作業の効率化に期待を寄せます。

両親からバトンを受け取った武さんは、新たな知識や技術を吸収しながら加速を続け、今日も農業者の先頭を走り続けています。

バトンをつないでいく

今月は

## サトイモ



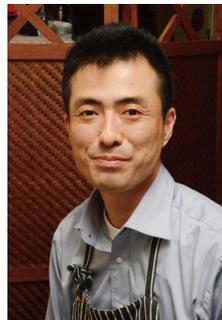
サトイモの原産地はインド東部〜インドシナ半島とされます。日本では稲作よりも早く縄文時代から食され、「万葉集」の歌にも詠まれるなど古くから記録が残されています。サトイモは根のように見えて実は茎が肥大化したもの。親芋、子芋、孫芋と続くことから子孫繁栄の縁起物として重宝されています。

主食代わり、おらずに大活躍のサトイモ。煮物や汁物はもちろん、揚げ物やサラダなど、さまざまなアレンジを楽しんでみませんか。

### 山内いものこ

「山内いものこ」は、横手市山内特産のサトイモ。高温多湿の中山間地で一日の寒暖差が大きい特有の気候と土壌が生み出すまろやかな粘りが特徴です。一昨年、「山内いものこ」は地域で一体的な生産振興が図られていることや県特有のブランドになり得るものとして、県から「あきたの逸品」に登録されました。JA山内いものこ部会は、高品質生産に取り組み、これからも消費者においしさを伝えていきます。

### 【サトイモの煮っころがし〜みそ風味〜】



「キッチン晴人」の  
オーナーシェフ

ながい ともかず  
**永井 智一**

1975年茨城県水戸市生まれ。高校卒業後、都内のすし店で修業後、帰郷し懐石料理を学ぶ。2013年12月に畑とつながるをコンセプトとした「キッチン晴人」をオープンし、地元農産物を生かした料理を提供中！

### point

素揚げにするときにはとにかくカリッと揚げること。

- ①サトイモは皮をむき、水大さじ1(材料外)を入れた皿に載せ、ラップフィルムを掛け柔らかくなるまで電子レンジで加熱する。
- ②①の粗熱を取り、180度のサラダ油で素揚げにする。
- ③ボウルに合わせみその材料を混ぜ合わせる。
- ④フライパンにオリーブ油を熱し、合わせみそを入れ加熱し、②を入れ手早く絡める。
- ⑤④を器に盛り、ゆでたスナップエンドウを散らし、すりごまを回し掛ける。

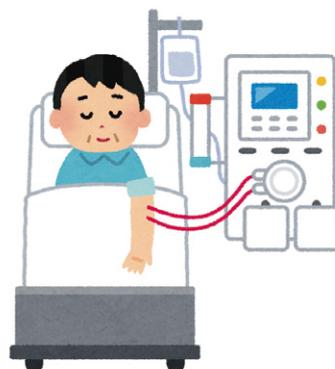
### ● 材料 (4人分)

- ・サトイモ 12個
- ・スナップエンドウ 4本
- ・すりごま 大さじ1
- ・オリーブ油 大さじ1/2
- ・サラダ油 適宜
- ・合わせみそ 大さじ2
- 田舎みそ 大さじ1
- 料理酒 大さじ1
- みりん 大さじ1
- 砂糖 大さじ1/2
- おろしショウガ 小さじ1
- おろしニンニク 小さじ1/2
- おろしタマネギ 小さじ1

# 健康情報

## 透析療法と糖尿病

平鹿総合病院 臨床工学科  
中田 由佳子



みなさんは臨床工学技士という職種をご存知でしょうか。

「いのちのエンジニア」とも呼ばれるこの職種は、医療施設において機器の操作・点検・整備することにより医療をサポートする医療機器のスペシャリストです。臨床工学技士が扱う機器の代表的なものとして、人工心肺・ペースメーカー・透析療法・人工呼吸器などがあげられ、今回はその中の「透析療法」についてお話したいと思います。

透析療法（以下、透析）とは、人工的に血液中の余分な水分や老廃物を取り除き、血液をきれいにする働きを腎臓に代わって行う治療法です。透析は腎臓の機能を回復させる治療法ではありませんが、正しく管理をすることで自分らしい生活を送ることの出来る治療です。

現在の透析患者数は約33万人に上り、その中でも「糖尿病」により透析導入となる割合が1番多くおよそ44%を占めています。

糖尿病、きっと誰もが1度は耳にしたことのある病気ですね。糖尿病の原因は1型と2型の2種類に分けられますが、2型糖尿病は最も一般的な糖尿病で10人に9人以上はこのタイプと言われています。2型糖尿病になる要因は様々ですが、食生活などの環境因子と体質（遺伝）の組み合わせで起こると考えられています。糖尿病神経障害・糖尿病網膜症・糖尿病腎症、これらは糖尿病の3大合併症であり、糖尿病腎症は高血糖によって、腎臓にある非常に細い血管がむしばまれることで発症します。進行すると、老廃物を尿として排泄する腎臓の機能が失われてしまうため、最終的に透析治療が必要となります。しかし、血糖値を正常に保つことで病気の進行を抑えることは可能です。血糖をコントロールするためには、食事療法・運動療法による生活習慣の改善や薬の使用を含めた適切な治療がとても大切になります。治療と向き合うことは自分の体や生活を見直すきっかけとなりますので、正しい知識を身につけて体調を整えましょう。

# あめな ひと

元気なお年寄りをご紹介します。

【大雄】 小野 昭子さん (74)

「好きなことをして生きていきたい」

小野昭子さんは息子の博則さんと二人三脚で野菜作りに取り組んでいます。メインの作物は約1畝の枝豆。朝4時半に起床し、前日に収穫しておいた枝豆の洗浄作業と袋詰めを行います。収穫後の枝豆には細かいゴミや泥などの汚れが付いているため野菜洗浄機に入れて水洗いします。野菜洗浄機を導入する前は手作業で洗浄していたため、「豆洗いが一番大変な作業だった」と振り返ります。9時までに出荷作業を終わらせ、遅めの朝食をとります。朝食後は圃場に向かい収穫作業をし、再び洗浄作業を行います。



春から秋にかけて20種類以上の野菜を栽培しており、収穫期が重なるるとんやわんやになってしまいうさうで、「野菜作りは難儀」と話す昭子さんですが、「野菜作りが好きだからやめられない」のだから。毎日畑に赴き、「日々成長していく野菜たちの姿を見るのが楽しい」と笑顔がこぼれます。



↑カブ「もものすけ」

枝豆の作業が落ち着いている時期は朝採り野菜への出荷や営農センターの直売所で販売する野菜の栽培も行っています。種苗店で種を購入し苗を作るのですが、その作業は博則さんの仕事。「種苗店からは苗作りは難しいと言われる品種でも上手に作ってくれる」と昭子さんは誇らしげに語ります。

↓インゲンの誘引作業



↑地這いキュウリ

大きな病気もしたことがないという昭子さん。「体が動く限りは野菜作りを続けたい」と目標を語ります。  
好きなことをして生きていきたい。  
今日も昭子さんは緋のもんぺとエプロンを身にまとい、昨日よりも成長した野菜が待つ畑に向かいます。

# を 知ろ う！ 学 ば う！

意外と知らないJAの仕事  
JA新採用職員が密着します。

取材にあたり、農業体験を実施した横手清陵学院中学校の皆さんとJA青年部の皆さんにご協力をいただきました！

今回は、「広報誌作り」に  
密着します！

はい！撮ります！

笑顔で！

夢中になって作業が  
できるのでとても  
楽しいです！

農業体験をやって  
みていかがですか？

十文字支店 佐々木 悠紗



生産者の方や  
生徒の皆さんにインタビュー

## ①取材



記事を作成するにあたり、情報収集をします。写真撮影はもちろん、対象者の方にお話をうかがいます。

## ②編集



取材後、事務所に帰り、パソコンで編集を行います。レイアウトを決め、出来上がった原稿を印刷業者に入稿します。

皆さんのおたよりを  
待っています！

編集する際は「おたより」など  
いただいたご意見・ご要望も  
誌面反映できるように心掛  
けています。

このコーナーも  
編集しています！

総務企画部 総務課 広報担当  
(み)こと 小松谷 穂

総務企画部 総務課 広報担当  
(き)こと 高田 貴和子

## ③校正



原稿記述や表記の最終確認を  
します。赤ペンなどで直し、修  
正する箇所がない場合は校了と  
なります。

この後、業者で印刷、製本をして納品となり、広報誌「JA通信ふるさと」が読者の皆さんの手元に届けられます！

分かりやすい表現を  
摸索しています。

皆さんの協力を得て  
完成します！



広報誌の取材に同行して、撮影やインタビューを体験しました。実際に様々なところに出向いて、自分の目で見て直接聞くことで、JAや地域の身近な取り組みを知り、伝えることができると考えました。





## 今月のテーマ：『秋』

## わたしの川柳

収穫の  
秋は寄鍋  
具沢山  
P.N ひまぶしさん(雄物川)

ババヘラの  
パラソル消えて  
もう秋だ  
P.N 新米シニアさん(大森)

夏太り  
水から食に  
デブの秋  
P.N デブバーバさん(千文字)

街道走る

車窓に乱舞や  
秋桜の花  
松井 タエ子さん(横手)

### ●優秀作品

秋晴れに  
黄金の波を  
床屋する  
小野 良子さん(雄物川)

### ●今月の最優秀作品



楽しい川柳作品をお待ちしております。最優秀作品には、素敵な記念品を進呈！  
【11月号のテーマ】「紅」 【応募方法】 ハガキに川柳作品（パズルにご応募の方はその答えも）のほか、次頁下段の応募方法①～⑥をご記入の上、ご応募ください【応募先】〒013-0036 横手市駅前町6-22 総務課 広報担当【応募締切】10月29日(月)当日消印有効  
＜作品をご応募いただく皆さまへ＞ 掲載された作品を横手かまくらFMにおいて毎月第4水曜日午後12時15分頃より(変更あり)ご紹介させていただいております。作品と投稿者名(地区は除く)をご紹介しますので、ペンネームでのご紹介をご希望の方は必ず記載してください

応募作品数…27作品  
■「稲刈り」という言葉を使わずに上手に表現されています。刈取り後に株が残る姿はさながら少年の坊主頭のようなですね。

## おたより

●西日本の豪雨被害や北海道を震源とする地震など立て続けに発生しました。防災記事に改めて考えさせられ、明日は我が身となるかもしれない自然災害に家族で話し合わなければならないと感じた特集でした。ありがとうございました。

／平鹿 R・Sさん(68)

●災害年表を見て、身の回りの被害(倒木)を思い出した。改めて備えが大事だと思った。

／横手 K・Tさん(61)

●つい最近まで“秋田は台風も来ないし雪害だけだ”と勝手に思い込んでいましたが、考えを改めざるを得ませんでした。風水害もたくさん受けているんですね。これを機に防災意識を高めて自助、共助の気持ちで身を

守っていきたいです。

／雄物川 S・Sさん(67)

●災害はいつ起きても不思議ではないですね！

／金沢 T・Mさん(90)

●防災特集がとても参考になりました。毎年自然災害が全国的に広がる中で、常に備えておくことがとても大切だと思いました。

／雄物川 T・Oさん(30)

防災特集の反響が非常に大きく、掲載してよかったなと感じています。今年のいいニュースとして甲子園が沸きましたが、彼らは本番に向け厳しい練習を重ねてきました。練習は本番前にやるから意味があります。大会が終わってから練習を始めても遅いですよね。万一へ向けた準備は万が一が起こる前にしましょうね。

## 管内で珍品野菜が続々収穫！ ～ミニ自まんこコンクール～



▲雄物川 Y・Oさん「お尻美人の南瓜」



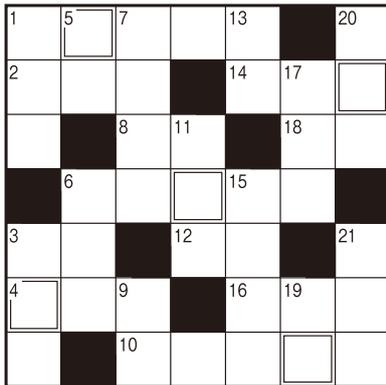
▲十文字 Y・Kさん「料理する前に」

みなさんの作品を  
お待ちしております！

管内の風景写真や自慢の逸品、珍品野菜など、みなさんの「作品」を募集しています。ご応募は当ホームページにある専用フォームからお寄せ下さい。(携帯からは、以下アドレスへ) 掲載者には、素敵なプレゼントを差し上げます。  
メール【wg-koho@akita-furusato.or.jp】

## クロスワードパズル

これが終わった後  
焼き●●や●●ごはんにしたくなります



【解き方】 全部の問題を解き二重枠の文字を並べ替えると一つの言葉ができます。それが答えです。

### ↓ タテのカギ

- 1 馬に乗る人のこと
- 3 マガモを改良して作られました
- 5 お金を借りると付くことも
- 6 日本海軍が造った世界最大の戦艦
- 7 軍配を持って土俵に上がります
- 9 神社で神事に奉仕する女性
- 11 泡立ててメレンゲを作ります
- 13 田畑を耕す道具の一つ
- 15 首都はハノイ。米の生産が盛んな国です
- 17 ——あれば憂いなし
- 19 野球でランナーが滑り込む所
- 20 カトリックでは神父、プロテスタントなら
- 21 リレーの選手がつなぐ物

### → ヨコのカギ

- 1 ギーッチョンと鳴く秋の虫
- 2 図書館で専門的な仕事をします
- 3 海に潜って貝などをとる職業
- 4 目のこと。つぶらな——
- 6 ゆらゆらとバランスを取る玩具。長い腕を持つ人の形をしています
- 8 子(ね)と寅(とら)の間
- 10 警察官や消防士、裁判官はこれ
- 12 黄門様のお膝元です
- 14 決まった時間に寝起きする、——正しい生活
- 16 渦巻き模様が付けられた練り物
- 18 二十世紀、新高などの品種があります

ピーナッツ箸・箸置セット  
3名様にプレゼント！



子供から大人まで  
大人気のスヌーピーが  
落ち着いた色使いの  
箸・箸置きに！

(J A 秋田ふるさと総務課広報担当 行)

#### ①クロスワードパズルの答え

--	--	--	--	--

#### ②住所

〒 \_\_\_\_\_

#### ③氏名 (P.N. )

#### ④年齢 \_\_\_\_\_ 歳 ⑤電話番号 \_\_\_\_\_

#### ⑥当誌の受け取り場所 \_\_\_\_\_

#### ⑦今月の好きな記事とその理由 または当誌やJ Aへのご意見・ご感想

#### 【応募方法】 川柳もこちら！

ハガキに左記①～⑦までの項目をご記入の上、下記までご応募ください。左の点線を切り取って管内最寄りの支店まで持参いただくかハガキに貼り付けてもご応募できます。なお、お寄せいただいたご意見は「おたより」のコーナーにて回答させていただきます。場合がございます。

#### 【応募先】

〒 013-0036 横手市駅前町 6-22  
J A 秋田ふるさと総務課広報担当 または J A 秋田ふるさとホームページ <http://www.akita-furusato.or.jp/> からでも OK。  
「みなさんの声と作品をお寄せください」バナーをクリック！

#### 【締 切】

10月29日(月)当日消印有効



■9月号の答え／コスモス

■9月号の当選者／

小杉豊房さん

P. N. ケンちゃんじいちゃんさん

P. N. 歩ばあばさん

■応募総数／69通

■正解者数／69通

## 福祉部からのお知らせ

今年もやります！

## JA福祉レンタルサービス

# 展示会



日時：11月14日(水) 10時～15時

会場：平鹿支店2階会議室

注目1 最新福祉用具の展示&体験コーナー  
★セニアカーの試乗もできます



介護相談コーナーも  
あります！

注目2 美味しいと評判の！？  
人気の給食メニュー 試食会



お土産も  
あるよ

注目3 来場者に記念品をプレゼント♪

主催 JA秋田ふるさと福祉部  
協力 JA健康生き生き100歳プロジェクト  
AutoLand

【 お問い合わせ 】  
JA福祉レンタル  
担当：佐藤(利)、幕沢、佐藤(龍)  
TEL 0182-56-0290 FAX 0182-56-0295

## 平鹿総合病院 糖尿病教室のお知らせ

糖尿病は適切な食事と運動をおこなうことで  
合併症を起こすことなく健やかな生活を  
送ることができます。



糖尿病とうまく付き合っていくための  
「糖尿病の正しい知識」を学んでみませんか。

### 第3回 糖尿病教室

日時／11月14日(水) 11時30分～13時30分

会場／平鹿総合病院2階 講堂

内容／「食事療法について」

参加費／1000円(昼食代)

\*開催日の1週間前まで下記のお問い合わせ先  
に連絡いただくか消化器・糖尿病内科の外来  
窓口にお申し出ください。

【お問い合わせ】平鹿総合病院 TEL0182-32-5253  
(リハビリテーション科事務まで) 受付時間9時～13時

## 退職者のお知らせ

下記の職員が退職いたしました。  
大変お世話になりました。  
【9月25日付】飛澤 大地(米穀課)

## JAバンクあきたアカデミー 窓口コンテスト 秋田県大会に平鹿支店ペアが出場



9月15日に秋田市で開催された標記大会(主催：農林中央金庫秋田支店)に当JA代表として平鹿支店の柴田江理子支店長補佐(上写真=左、下写真=右)と太田美咲さん(上写真=中央、下写真=右から2番目)のペアが出場しました。出場者はテラー役と上司役のペアで登壇。お客様役との会話の中から情報を聞き、正確な事務処理と顧客ニーズに合ったサービスを分かりやすく説明できるかを審査され、同ペアは特別賞に輝きました。同ペアは「他の参加ペアの窓口対応も参考になった。ぜひ今後活かしていきたい」と感想を話していました。



## 理事会だより

### 【臨時理事会】

平成30年9月11日(火)  
出席理事数32名(32名中)  
議案(抜粋)  
■平成30年産米の概算金設定について

### 【第6回定例理事会】

平成30年9月27日(木)  
出席理事数32名(32名中)  
議案(抜粋)  
■平成30年度第1四半期監事監査検討・改善を要する事項に対する回答について  
報告事項(抜粋)  
■平成31年産米営農計画書の取り纏め状況について

(株)ふるさと葬祭アグレム

参加無料

10/14  
(日)

## 人形供養祭

大切にしていたお人形、ぬいぐるみなど丁寧にご供養いたします

受付 9:00~

供養開始 11:00

会場

虹のホールアグレムよこて  
横手市三枚橋一丁目6-10 TEL.0182-36-3930



虹のホールアグレム 三枚橋

横手市横手町字下飛瀬201

オープン前のホールをご見学いただけます。  
ぜひ、お気軽にお越しください。

10/14  
(日)  
9:00~16:00

## 内覧会開催

### 職員新採用のお知らせ

JA秋田ふるさとでは平成30年10月1日付で13人の職員を新たに採用いたしました。(写真は入組式辞令交付の様子)



- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| ◆融資課 佐々木 美樹 | ◆横手営農センター 渡辺 純也 |
| ◆金融課 照井 信恵  | ◆平鹿営農センター 栗谷 全  |
| ◆金融課 藤原 瑠夏  | ◆大雄支店 伊藤 夕夏子    |
| ◆米穀課 中安 将太  | ◆雄物川支店 後藤 美幸    |
| ◆果樹課 大沼 貴和子 | ◆十文字支店 田中 嘉代子   |
| ◆横手支店 高橋 真希 | ◆福祉課 柴田 美和子     |
| ◆横手支店 久米 航平 |                 |

これからお世話になります。

### ふるさとオートランド 自動車展示会のお知らせ

日時/10月27日(土)~28(日)

9時~17時

場所/(株)ふるさとオートランド  
展示場

- お買い得未使用車はじめ  
新車・中古車多数展示
- 屋台コーナー
- 自動ブレーキ(衝突回避支援システム)体験コーナー
- ブリヂストンスタッドレス  
タイヤ予約特典あり
- 豪華!成約記念品
- 来場者プレゼントもご用意!  
詳しくは折込チラシをご覧ください

ふるさと  
**AutoLand**

横手市安田字堰端96  
TEL 0182-33-5995

# 蕎麦食い平太

●再話／中川文字 ●画／佐々木愉美子

昔むがし、蕎麦が大好きだ平太。太つていう男、えだけど。蕎麦屋さ行げば、必ず蕎麦十五杯、注文するなだけど。

ある日、蕎麦屋の店主さ「こつたに通つてゐるなだおの、一杯、二杯まげだたて罰当たらねやべ」って言ったば、「俺ら、これで商売してゐるなだから、簡単にならばご馳走されねや。んだのも、一度に三十杯食だこつたば無料にする。その代り、一杯だつて残せば、代金は三十杯分払つてもらおう」って言ったけど。平太、「わがった。何杯でも食う。七日後、来るがらな」って言って家さ戻つたけど。家さ戻つて「なんぼなえだたて三十杯なば無理だな。んだのも、蕎麦屋の店主ど賭けしてしまつたしな」って思案したんだ。

平太、蕎麦屋さ行く前の日、山で柴採りしてだけど。したば、大きな蛇、チヨロチヨロど出できたネズミどごペロつと飲み込んだけど。蛇の腹、プクつと膨らんだけど。黙つて見でだば、まだネズミ出はつてきたけど。二匹目のネズミもペロつと飲み込んだけど。次々ど出はつてくるネズミ十匹も飲んだなで、腹おつぶぐれになつたけど。平太、「蛇の腹の中、何んたふうになつてゐるなだべ。俺らさあの腹あれば、蕎麦屋の店主さ勝てるどもな」って思つて眺めでだば、蛇、重でや腹引き摺りながら藪原さ入つて行つたけど。平太、秘つと追つて行つたば、見だごどもねや雑草生えでだけど。蛇、ペロつと舐めて一口食つたば、腹、スーと凹んだけど。平太、「こりや良え物、見つけた。



満腹ぐなつた時に食ば、腹空ぐな」って、雑草持ち帰つたけど。翌日、蕎麦屋の店主、井三十個並べで待つてだけど。平太、店主が盛つた蕎麦、片っ端がら食つて、とうとう三十杯食つたけど。店主「降参、降参」って負け認めだけど。満腹ぐなつた平太、蛇みでやえ体引き摺つて、家さ戻つたけど。床さ入つて懐がら雑草取り出して、くちゆくちゆく噛んで飲み込んだ。

翌朝、平太、なんぼしたたて起きでこねやけど。女房、起ごしに行つたば、平太の着物さ包まれた山盛りの蕎麦があるけど。とっぴんばらりのふう



▲QRコードを読み取ると音声で「ふるさと民話」をお楽しみいただけます。

## JAの概況

## Situation

組合員数	17,665人
（正組合員）	12,792人
（准組合員）	4,351人
貯金	1054億439万円
貸付金	332億7350万円
購買品供給高	30億1977万円
販売品販売高	35億3672万円
共済保有高(保障)	4056億1757万円
	(2018年8月末現在)

## 編集後記

今月号の「JAを知ろう！学ぼう！」では満を持して(?)広報担当が登場。取材される側として登場するのは初めてのことで緊張しましたが、非常に勉強になりました。

この編集後記を書いている最中に(み)さんは、ありとあらゆる手段を使って顔の修正を試みていたようですが、掲載されたのか否かそれは、見てのお楽しみです。

(き)

自他共に認めるインドア派の私ですが、今年には思い切つて居住する地区のお祭りに参加しました。これまでもお祭りに参加するという経験をした記憶が無かったので、本当に貴重な経験をさせていただきました。また、参加して初めて高校時代の同級生が2人も同じ地区に住んでいることもわかり、何事も「やってみないとわからない」ものだなと感じています。もちろん、次の日に私の全身を襲った筋肉の痛みも「やってみなければわからない」のでしようが…。

(み)



## JA通信 ふるさと

発行／秋田ふるさと農業協同組合  
企画／編集／総務課 〒013-0036秋田県横手市駅前町6番22号  
印刷／(株)全農ビジネスサポート秋田支店

TEL／0182-35-2630  
FAX／0182-35-2701  
E-mail／fu.staff@akita-furusato.or.jp

秋田ふるさと

検索

検索サイトでJAのホームページに簡単アクセス！